

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	食育推進事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	保健福祉部	課等名	保健課		包含する細々目	1	4	1	3	11	2	1,522
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり											
施策	31 心と体の健康づくり											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	不要	関連計画条例等		健康いいだ21、健康日本21、健康増進法 食育基本法				
		事業期間	16	年度～	年度							

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値				
	・20歳～69歳の市民 ・食生活改善推進員	20歳～69歳の人口 人	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了は終了年度とする	
			65989				
		飯田市食生活改善推進員 人	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度			
			300				
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)				
	市民が自分の健康に関心を持ち、生活習慣を見直して、自分に適した食生活を理解し実践できる。	男性健康教室参加者で健康によい生活が実践できた人の割合 % (アンケート調査結果)	18目標	85	最終目標		
			18実績	83	19目標	85	↑
		23目標		23実績		最終目標達成年度	
		食生活改善推進員の地域活動回数(伝達講習、子ども・親子料理教室、いきいき・高齢者教室、7ヶ月相談離乳食試食等) 回	18目標	250	最終目標		
18実績			284	19目標	270	↑	
23目標				23実績		最終目標達成年度	

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	22年度に健康目標を定めた指針、「健康いいだ21」の推進のため、年度ごとに重点項目をかねて、具体的な実践を推進しているが、16年度からは「栄養と食生活」に重点に推進している。生活習慣病予防のために、正しい知識と実践力を身につけ、地域の仲間と地域に合った活動を展開する。	18年度の実績 関係各課や教育委員会等、地域の団体と連携し食育を推進する。 食のボランティア育成のための健康教室の開催 中高生に対する食育：進学し一人暮らしする前に食の基本や簡単にできる料理の実技実習、生徒に対し食事の基礎を学ぶ講座の開催 男性の健康教室実施(鼎消防団員対象) 食生活改善推進員による地域活動実施	健康教室参加実人数 中高生に対して実施した講座数 男性健康教室参加実人数 各種活動回数と普及対象人数	23人 3講座 46人 284回 18162人
	19年度計画 食育推進計画の骨子を検討(20年度策定) 健康いいだ21の推進のために「栄養と食生活」に係る市役所内関係課と連携した事業内容にする。 健康教室の開催(食のボランティア養成講座) 男性対象に食生活改善のための教室充実(座光寺地区消防団員) 食生活改善推進員による地域活動実施	健康教室参加実人数 中高生に対して実施した講座数 男性健康教室参加実人数 各種活動回数と普及対象人数		

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他		
	一般財源	1,602	1,522
事業費計(A)	1,602	1,522	
人件費	正規職員所要時間	18年度 1,400	19年度 1,400
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	5,006	5,006
	トータルコストA+B	6,608	6,528

特定財源内訳や補足事項	
-------------	--

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	心身ともに健康を保つ	生活習慣病による65歳未満死亡率	現状値	110.5(H16)	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	100
			現状値		19実績	
			20実績		21実績	
		22実績		23目標		

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
平成5年度まで市内3地区のみで食生活改善推進の活動をしていたが、全市に拡大するために平成6年度健康教室を開催した。また、健康教室への参加はほとんどが女性であり男性の参加者が少ない。40歳～69歳の基本健康診査受診者も男性の方が少ない。そのうち64歳以下では、何れかの健診項目に異常のある人は男性の方が多い。このため、女性のみならず男性のための健康教室が必要と考えた。	「健康いいだ21」推進事業として15年度は運動・身体活動に重点をおき推進事業を展開した。16年度からは運動に加え、栄養・食生活を課題とした事業を実施し、18年度に中間評価をおこなった結果20歳代男性の朝食欠食の増加や男性の肥満者の増加等計画策定時より悪化した項目が見られた。食生活改善推進協議会は平成14年度までに全地区に設置され、活動回数が増えてきている。17年7月に食育基本法が施行され保健・保育園・教育委員会・農業課等庁内関係各課や関係団体等の連携で食育に関する事業の推進をおこなうための体制づくりがはじまった。	男性健康教室では回を重ねるごとに食生活に関する質問が増え、「家庭でも話題にした」などの声があった。

【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由)	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 余地がある (その理由)
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) 影響あり (その理由)
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)	(評価) 統合不可能 (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) 必要ある (その理由)		効果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) 可能 (その理由)
			公平性 評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由)

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持	男性の健康教室の対象者を若い男性の食育の必要性から消防団員としているが、他に職域等への働きかけも必要である。
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	地元企業との連携・働きかけ

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？	

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	